

# WAVE

## ～広島市安佐南区西原地域交流拠点計画～

広島県広島市安佐南区は、広島市内や市外へ働きに出る人々のベッドタウンであり、広島市全8区のうちで最も人口の多い地区だ。

区内には市民が予約して利用することのできる公民館という施設が10か所あり、地域コミュニティが活動する場となっている。地域コミュニティの希薄化が問題視される現代社会において、公民館のような地域施設は重要性を増すのではないだろうか。

しかし、その空間に着目すると、それらはどれも閉鎖的であり、外部からではどんなことをしているか様子がわからず、加えて大規模なものではないため複数のコミュニティで利用することはできない。こうした閉鎖的で少数でしか利用することのできない空間は、コミュニティの活動を隠蔽化させ、周囲へ認知される機会やコミュニティがオープンに活動する機会、人が集まってくる機会を遮断し、地域コミュニティを希薄化させている原因の一つなのではないかと考える。

これらを踏まえ、本計画では開放性が高く、様々なプログラムを備えた大規模な地域の交流拠点を提案し、安佐南区のコミュニティの希薄化という問題を建築的観点から解決することを目的とする。



### ① かつての中国地方での情報の中心地

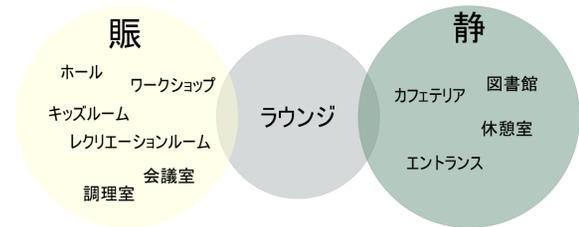


■ - 計画敷地

本計画で使用する敷地は現在ラジオ放送所、そして野球グラウンドとして使用されている面積24,470㎡の敷地である。敷地の周辺は住宅やマンションが多くあり、東側にはアストラムライン祇園新橋北駅があり、国道も通っていることから、交通アクセスが容易であることが特徴である。また敷地の中央には全長137mのアンテナが立っておりかつて中国地方で初めてラジオを送信した情報の中心地として知られる。

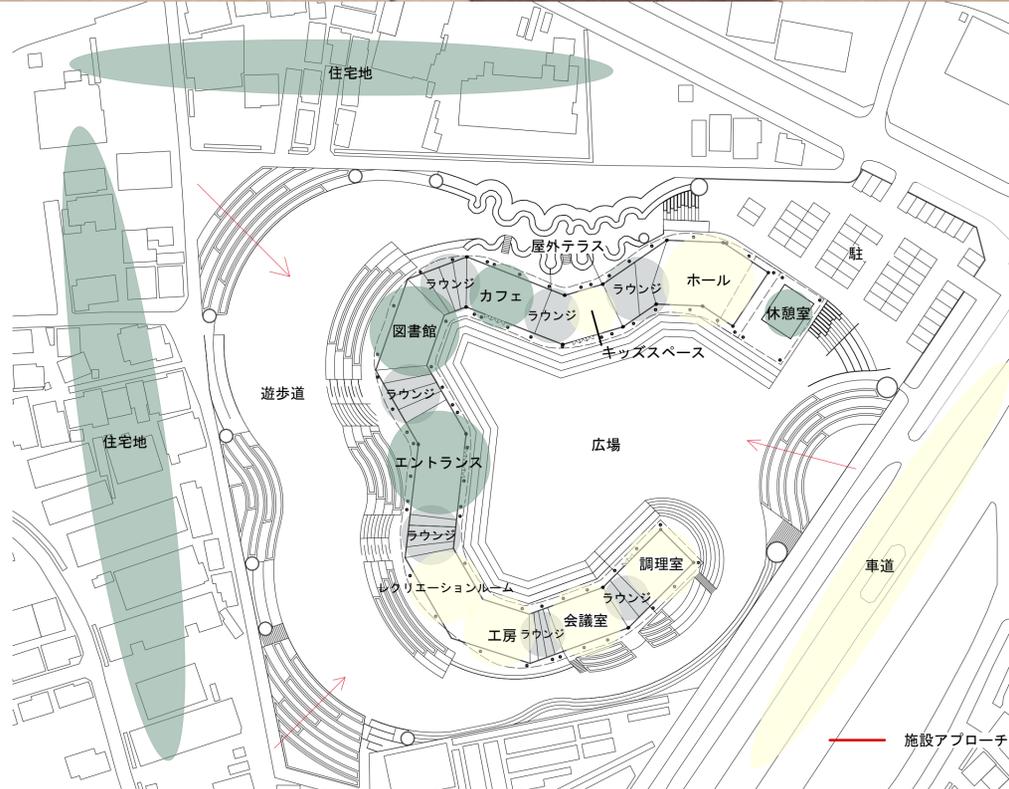
この敷地は北、西を住宅が取り囲んでおり、特に西側は静かで低層の住宅が密集している場所である。しかし東側は広い車道、駅があることから賑やかな印象を持ち、人通りも最も多い位置である。

### ② 3種類の空間と周辺環境に調和した配置計画

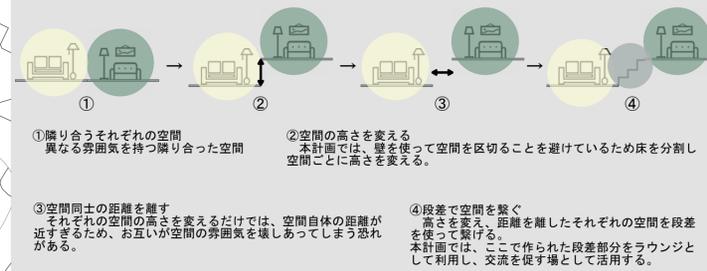


敷地分析により、敷地西側と東側では既存建築の印象が大きく異なるため、本計画の配置もそれに合わせた配置を行う。まず施設全体を東側に位置させ住宅地と離すことで騒音や施設が住宅の壁となる事を防ぎ、敷地における余白部分とする。この余白は遊歩道を計画し施設を周遊できる空間となる。そして配置するプログラムを「賑」と「静」の2種類に分類し、敷地東側では調理室、多目的室、ホール、工房、キッズスペースなどの「賑」の空間を、反対に西側では、「静」の空間である図書館、カフェテリア、会議室などを配置し、周辺環境へ近づけた配置とする。

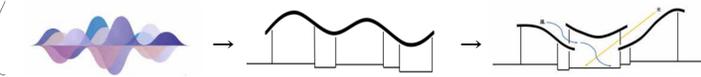
また、それぞれの空間の間にラウンジを配置する。これは用途の違うそれぞれの空間が持つ雰囲気や壊さないようにする緩衝材としての役割を持つ。



### ③



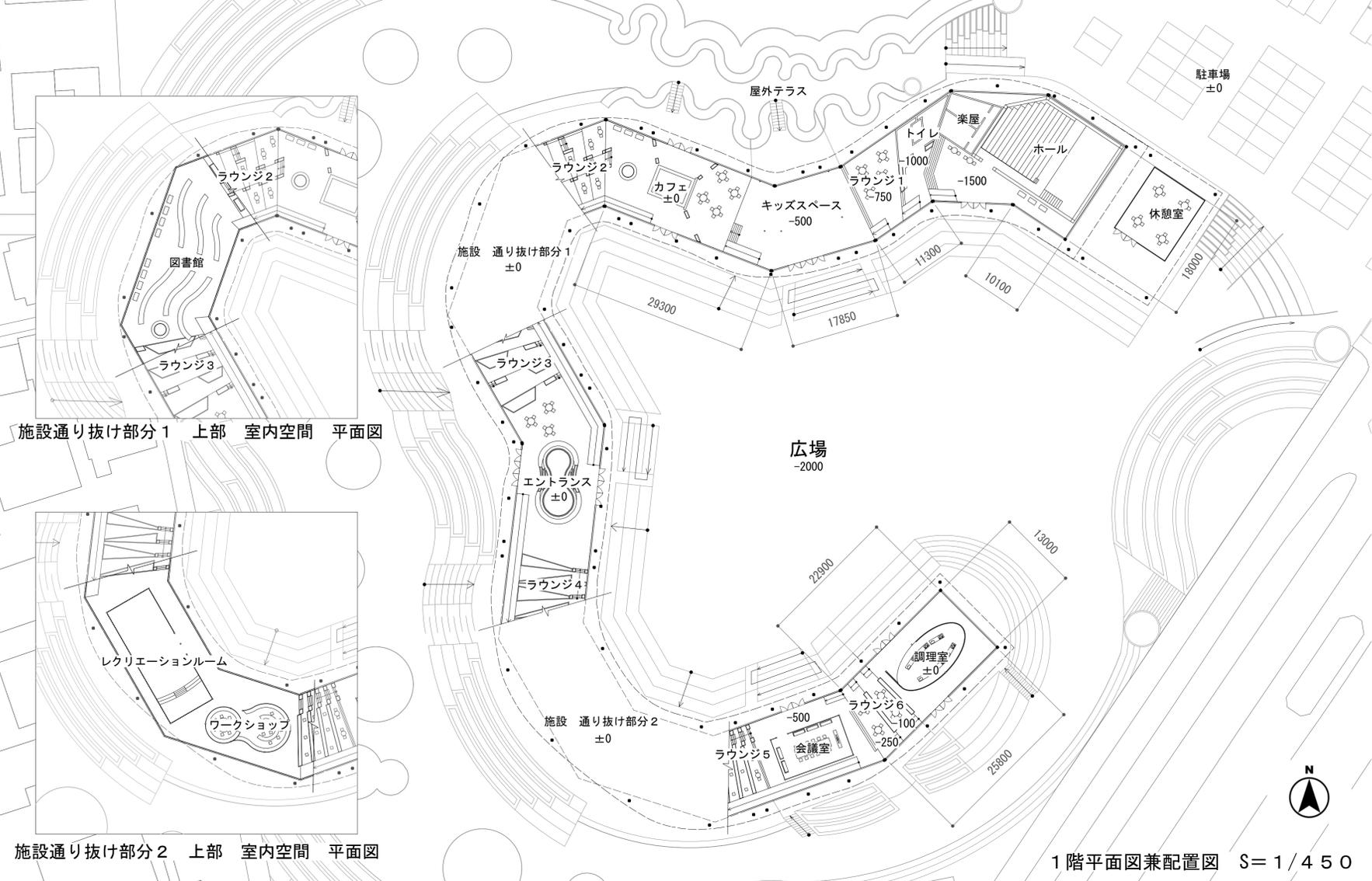
### ④ 電波をもとに「周波数」から着想を得た屋根形状



屋根は、「周波数」から着想を得て、波形を参考に表現した形状とする。敷地周辺にある高低様々な住宅やマンション、アパートに合わせて、その建物の視界や通風、採光を遮らないよう屋根の高さを上下させている。そしてその屋根を複数に分割しそれぞれ高さをずらすことで、施設内部にも採光や通風のよい環境を生み出そうと試みた。



## 5 施設 平面図兼配置図



施設通り抜け部分 1 上部 室内空間 平面図

施設通り抜け部分 2 上部 室内空間 平面図

## 6 「オープン」な内装計画



内装計画を行うにあたり、「オープン」であることをコンセプトとし、以下の2点の特徴を持つ内装を計画した。

- ①室内にある居室はホールを除き、ガラス張りで計画し視界を広げられるよう計画する。
- ②室内にある植木鉢等のインテリアは人の目線よりも低いものを配置し、インテリアによって目線が遮られるのを防いだ。

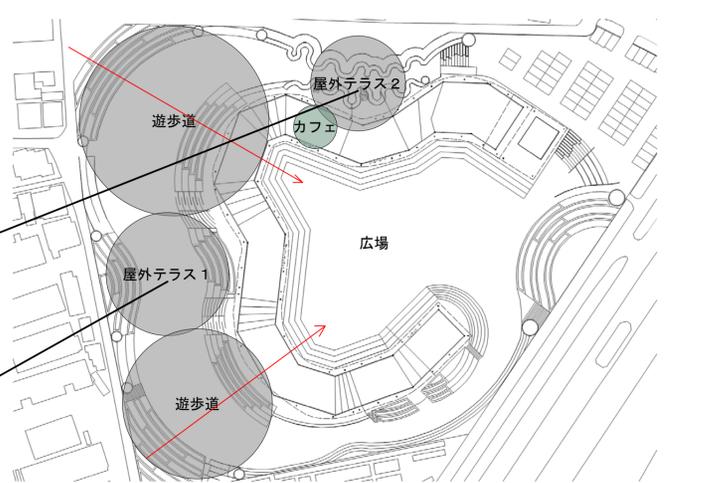
## 7 施設を取り囲む外構（遊歩道、屋外テラス）

本計画では、施設が敷地の中心にあり、それらを取り囲むように外構部分が存在する。また、外構部分のレベルは施設部分のレベルよりも低いという特徴がある。

広場への通り抜けの出来る近道。北西、南西出入口の二つから一直線に通り抜けができるようになっており、出入口から広場の様子を伺うことができる。

屋外テラス2、この空間は施設を取り囲む外構部分ではあるが、施設内のカフェからもアクセスすることのできる屋外座席としての用途も持ち合わせている。

外構空間の遊歩道中心にある屋外テラス1、この空間は距離の長い遊歩道で一息対句ことのできる休憩所としての役割があり、すぐ東側には施設エントランスが隣接されている。



屋外テラス1



屋外テラス2

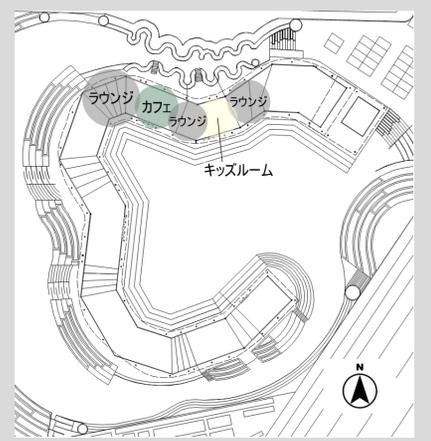
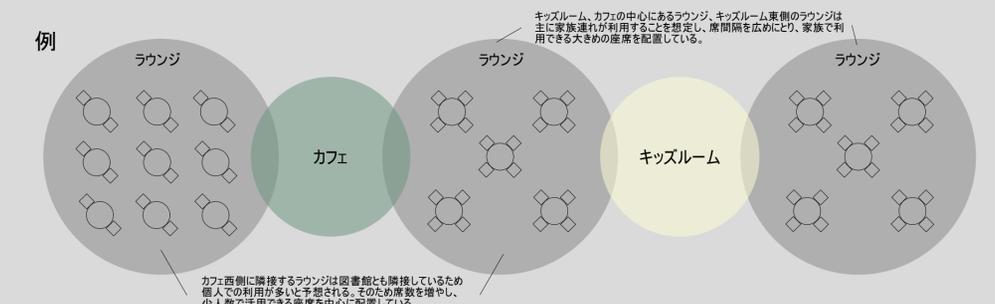


遊歩道

## 8 交流の場 ラウンジ

ラウンジを計画するにあたり、隣接する各居室との繋がりを意識し計画した。

配置するテーブルの種類や数、間隔をラウンジごとに変化させた。これにより、複数あるラウンジがそれぞれ違う特徴を持ったラウンジとなる。隣接する各居室に合わせる事で、利用する人々に合った使い勝手も良い空間になることを目指した。



ラウンジ2



ラウンジ5



ラウンジ3